

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)音羽建物博多駅前四丁目計画	階数	地上12F
建設地	福岡市博多区博多駅前四丁目35、36	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	160人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,600時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2023年3月7日
敷地面積	528㎡	作成者	花岡 光
建築面積	233㎡	確認日	2023年3月10日
延床面積	2,345㎡	確認者	大森 正俊



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み: 81% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の: 81%

④上記+: 81%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.3

Q1 室内環境 (Q1のスコア= 3.1)

音環境	3.4
温熱環境	2.6
光・視環境	3.3
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能 (Q2のスコア= 3.7)

機能性	4.2
耐用性	3.3
対応性	3.6

Q3 室外環境 (敷地内) (Q3のスコア= 3.1)

生物環境	2.0
まちなみ	4.0
地域性	3.0

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー (LR1のスコア= 3.5)

建物外皮の	4.6
自然エネ	3.0
設備システ	3.6
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル (LR2のスコア= 4.0)

水資源	3.4
非再生材料の	4.4
汚染物質	3.3

LR3 敷地外環境 (LR3のスコア= 3.1)

地球温暖化	3.7
地域環境	2.5
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
福岡市博多区に建設されるオフィステナントビルの計画である。1階にはピロティ空間とカフェを計画、屋上には緑化と休憩スペースを計画し建物利用者の快適性向上を図っている。貸室では開放可能な開口、専有バルコニーを設け、光や風を部屋内へ取り込むことで豊かな執務環境を形成している。直天仕上げとすることで階高を押しさつつ、開放的な空間を実現するとともに、使用する材料の低減を図っている。	特になし	
Q1 室内環境 音環境、熱環境、光環境、空気質環境それぞれに配慮し利用者の快適性向上を図っている。	Q2 サービス性能 リフレッシュスペースを適切に設け、機能性に配慮している。	Q3 室外環境 (敷地内) 周辺環境に配慮し、外構や建物植栽を積極的に設けている。
LR1 エネルギー Low-eガラスを採用して熱負荷低減に配慮した。また、LEDなど高効率な機器を採用し、エネルギーの削減を図った。	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用やリサイクル材の積極的な採用で資源の保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 LCCO ₂ の排出量削減に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される